

No.617 (改題577号)
2023年
2月8日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

64 物語

1868(慶応3)年の神戸港開港とともに、居留地に欧米人が次々と商館を開く。彼らとともに長崎や上海、香港からやってきた華僑も居留地近くに貿易商館を構え、

いまの南京町となる中国人街を形成していく。華僑の多くが居住する下山手通に洋風の神戸華僑同文学校(現神戸中華同文学校)が建てられたのは、1900(明治33)年3月10日。清朝から日本に亡命中であった政治家の梁啓超が「中国の言葉と文化を華僑子弟に伝えていく必要がある」と説いたことが学校設置のきっかけになったと伝えられている。

ちなみに、開校当時の空襲で焼け残った赤レンガでつくられたモニュメントは、神戸華僑教育の出発点になった歴史を記憶にとどめるために2009年に建立された。

中央区には神戸華僑歴史博物館(海岸通3丁目)や関羽を祀った関帝廟(中山手通7丁目)など



1945年の神戸大空襲で焼け残った赤レンガでつくったモニュメント。神戸華僑教育の出発点を記憶に残そうと2009年に建立された

旧神戸中華同文学校の赤レンガ

(神戸市中央区下山手通)

1868(慶応3)年の神戸港開港とともに、居留地に欧米人が次々と商館を開く。彼らとともに長崎や上海、香港からやってきた華僑も居留地近くに貿易商館を構え、

いまの南京町となる中国人街を形成していく。華僑の多くが居住する下山手通に洋風の神戸華僑同文学校(現神戸中華同文学校)が建てられたのは、1900(明治33)年3月10日。清朝から日本に亡命中であった政治家の梁啓超が「中国の言葉と文化を華僑子弟に伝えていく必要がある」と説いたことが学校設置のきっかけになったと伝えられている。

ちなみに、開校当時の空襲で焼け残った赤レンガでつくられたモニュメントは、神戸華僑教育の出発点になった歴史を記憶にとどめるために2009年に建立された。

中央区には神戸華僑歴史博物館(海岸通3丁目)や関羽を祀った関帝廟(中山手通7丁目)など



予定候補者が勢ぞろい。左から要コウタ、山口みさえ、あわはら富夫、さかい大起、高橋ひでのり、小林るみ子、丸尾まき、大島淡紅子、おおつる求の各氏=1月17日、中央区民センター



岡崎彩子・党県本部書記次長の司会で進められた集いは、阪神・淡路大震災からちょうど28年という日の開催に因み、冒頭に震災犠牲者に黙とうをささげた。

続いてあいさつに立った粟原富夫委員長も、震災後の被災者生活再建支援法をめぐって訴えた。

新社会党兵庫県本部(粟原富夫委員長)は2年つづけてコロナ禍のために開催を見合わせていた「新春の集い(新春講演会)」を1月17日、中央区内で3年ぶりに開いた。集いでは水摩雪絵さん(東京・葛飾区議、新社会党東京都本部書記長)による「区議選のネットワークづくり」どう選挙をたたかいたか」と題した講演に学ぶとともに、そうって出席した統一自治体選挙をたたかう兵庫県本部公認、推薦、支持の予定候補者全員の勝利に向けた決意を共有し合った(写真左)。

統一自治体選の勝利を誓おう

水摩雪絵・葛飾区議の選挙に学ぶ
新社会党兵庫県本部が新春の集い



水摩雪絵さん

は、党総支部や運動全体の高齢化に対する危機意識を基に、自ら全労協青年委員会やユニオンの青年委員会に積極的に関わりを持っていくなかで、

ワーカーの力が2021年の自分の3選目の区議選でも大きな力を発揮してくれたと自らの経験を具体的に報告し、その教訓を述べた。

その後、新社会党兵庫県本部が決定した以下の公認4人、推薦5人、支持1人(敬称略)から次々に決意の表明を受けた。

半田滋さんが講演

新社会党がリモートで新春旗開き



講演する半田滋さん=1月20日、東京・新社会党中央本部

新社会党(岡崎ひろみ委員長)は1月20日、オンラインで全国を結び、2023年新春旗開きを開いた。コロナ禍の影響という事情があったが、オンラインで全国から参加する旗開きは初めての試み。兵庫県本部からも県本部事務所をサテライト会場にして参加した。

冒頭、岡崎委員長がいさつ。岸田政権の下での大軍拡や格差・分断の拡大、生活破壊の危機に触れ、今こそ人間の安全、人として生きる権利の実現のために要求を具体化して闘っていくべき時だと訴え、その主権者としての反撃の第一歩が統一自治体選挙だとしてその勝利とともに社会を変え、力をつくしていくと訴えた。

その後、来賓の服部良一・社民党全国連合幹事長からは、今通常国会で予想される重要対決法案や野党共闘に大きな影響を与えない維新と立憲の共闘の動向などを含めた国会情勢の報告とともに、大軍拡・大増税に対決する護憲勢力の共闘についての呼びかけが行われた。

水脈 わが国は古来「言霊(ことだま)の幸(さき)わう」と言われ、言葉は霊力を持ち、幸せをもたらすと信じられてきた。ところがどうだろうか。今の政治では、言った者勝ちみたいな言葉で済ませることが大流行である。首相は何もできないことを「異次元の云々」と言って挑戦しているかのよう

統一自治体選

丸尾まさき氏(県議選・尼崎市)の支持、おおつる求氏(伊丹市議選)の推薦を追加決定

新社会党兵庫県本部

新社会党兵庫県本部は4月の統一自治体選に向け、兵庫県議選に尼崎市選挙区(定数7)から無所属で立候補予定の丸尾まさき(58歳)の支持

を決定するとともに、伊丹市議選(定数28)に社民党公認で立候補予定のおおつる求伊丹市議(51歳)の推薦を決定した。これで新社会党兵庫県本部は県議選で支持1、神戸市議選で公認2、推薦2、一般市議選で公認2、推薦3の陣容で臨むことになる(1月17日現在)。



丸尾まさき



おおつる求

丸尾まさき(まるとお牧) 1964年尼崎市生まれ。大阪産業大学工学部卒業。有機野菜の八百屋業を経て1993年、市民派として尼崎市議員に当選(4期)。2007年に兵庫県議員に当選して現在4期目。市民オンブズ人、みどりの未来尼崎代表。

おおつる求(大津留もとむ) 1971年福岡県大牟田市生まれ。近畿大学法学部卒業。中川ともこ衆議院議員(前宝塚市長)地

元秘書を務めた後、2005年、全建総連・阪神土建労組書記局に入局。2015年、伊丹市議に当選(現在2期目)。社民党兵庫県連幹事長。 【連絡先】伊丹市稲野町1-6-403 電話090-8122-7114 メール info@otsuru.com

東京・杉並区長選

岸本聡子はなぜ勝った?

内田聖子さん講演要旨抄録②



講演する内田聖子さん=2022年12月3日

選挙戦は、できることは何でもやろうと女性たちが自分事として選挙に関わってくれたことが最大の特徴だった。いろんな世代の人や今まで選挙に行かなかった人が集まった。プロのカメラマンとか、広告関係の人が今までの選挙の候補者っぽくないというところで近寄ってきてくれ写真を撮ってくれたり、演劇関係の人が映像をドキュメンタリーにしてYouTubeで流してくれたりと、スキルを持った人たちがどんどん入ってきてくれたことも大きかった。

「一人街宣」と言っても、候補者がいないところで支援のボランティアがひとりずつ、岸本さんのポスターを首から掲げて、サウンドイッチマンみたいにして駅に立っ

た。こうすると壁にポスターを貼っているのと同じ効果になる。ボランティアの女性が、全部の駅に(杉並には全部で19駅ある)、朝と夕方、シフトを組んでひとりずつ立ち回って決めて次々にやっていった。やっている女性たちは本当に楽しくて仕方がないという感じになった。とくに選挙に無関心で、選挙なんかさうさいうって人たちが圧倒的に多いが、これは、うるさくない運動としてある程度

浸透したと思う。その証拠に、毎日いろんなところでやっている、知り合いみたいになるおばちゃんとかがいて、「あなた、今日もいるの?」とか言ってお茶とかお菓子をもたせられるようになる。「がんばってね」とか声もかけてくれる。だから、みんなはもう楽しくなって、すべー今日はどこどこへ行きました」とか、撮った写真をグループラインに流し合ったりして、ゲーム感覚のように、自分

が主体的に参加する機会を作ることができた。 また、知名度のことだが、岸本さんって知名度がないよねとすごく言われ、必ず「外国にいたんでしょ!」「杉並のこと何もしらないでしょ!」って言われる。こんな時、何て返したらいいかわからないという悩みが多くあり、とにかく知名度を上げなくてはというプレッシャーみたいなものがあった。

これでも市民の中で何人かでチームを作って、区長選の政策だから、住民運動のようには反対していきまస్తుいことではだめなん、こういう風にしますというビジョンを提示しなければ有権者を説得できない。だから、「聡子ビジョン」として、福祉や教育やさまざまな課題すべてを網羅するような政策を作った。 たいてい、こんなのは選挙期間中に1回出して終わり。しかも、ちっちゃいチラシをべらっと出

住民との対話を重視し政策を豊富化

度、知名度って言われて世の中が良くなったためしはあるんですかね?という感覚が私たちの中にあった。だから、タレントとか、著名人とか、アイドルとかがポッと出てきて途端に票を奪ってしまつて日本はだめなんだという思いがあるから、とにかく政策をちゃんと考えた、私も岸本さんも思っていた。毎朝駅に立って「いってらっしゃいませ。岸本聡子です」と繰り返して言われても、

それには何の意味があるのかという議論もすごくした。旧態依然としたこれまでの選挙スタイルを根本から変えない限り、日本の政治はよくなるというところには自信がなかったので、服装のことや髪型もことごとく変えても良かれと思ってすごく言われたが、とにかくありのままでもやろうと、さういふ声も聴くと、すべ、ちょっと調べてみる。

調べると、知らなかったことがわかって、じゃあ、それも政策に入れようというところで、3回ぐらい選挙中に更新して、随時ウェブサイトにアップしていくことをした。みんなの声を取り入れてバージョンアップしていく政策作りだ。

また、これも日本の選挙の最大の課題の一つだが、日本では政策論争というものが極端にない。これもメディアの責任だったり、知名度、知名度

という政治文化だったり、それらが全部統合して生じている問題だ。国政でもいまテレビ討論はものすごく少なく、都知事選だって減っている。区長選挙など討論会を開こうという発想自体がほとんどない。

ストップ大軍拡!
市民集会&デモ in HYOGO

●2月23日(木・休日)
集会14時~16時/デモ16時~17時
神戸市立婦人会館・4Fさくら(JR神戸駅・北へ5分)

●講演「市民の論議と国家の論議」
防衛政策の転換をめぐって」
山本昭宏さん(神戸外大准教授)

●宮古島からオンライン報告
(参加費5000円)

「5・3兵庫憲法集会」プレ集会

●3月7日(火) 18時30分
長田区文化センター大会議室

●講演「敵基地攻撃と日米一体化 防衛費増額は国民負担に」半田滋さん(防衛ジャーナリスト)

主催 総がかり行動・兵庫

改憲の動きをウォッチング

安保戦略 政府、国民に「決意」要求

開会中の第211回通常国会は、今後の日本の進路を左右する重大な国会となる。

岸田政権は、首相自ら「戦後安全保障政策の大転換」と誇らしげに明言する「国家安全保障戦略」など安保関連3文書を閣議決定した。その柱は、言うまでもなく憲法を踏みこむ敵基地攻撃能力の保有である。

この大軍拡を執行するため、今後5年間の軍事費を総額43兆円に大幅増額し、2027年度以降は年4兆円の追加財源が必要とする。そのうち歳出改革などでは賄えない1兆円強については増税によって捻出するとしている。政府は軍事力の抜本的強化のため、2022年度予算を1兆4192億円上回る6兆7880億円の2023年度軍事予算を国会に提出している。

岸田政権が閣議決定した安保戦略には、「敵基地攻撃能力の保有を盛り込み、国家としての力の発揮は国民の決意から始まる」という。これに「決意」を要する。岸田首相、憲法の道に大きく踏み出した岸田政権に対する的を射た批判でなからうか。

その岸田首相、憲法の平和主義を覆す暴挙を行っていつから1月23日の施政方針演説で「今回の決断は、日本の安全保障政策の大転換ですが、憲法、国際法の範囲内で行うものであり、非核3原則や専守防衛の堅持、平和国家としての我が国としての歩みを、いささかも変えるものではない」ということを明確に申し上げたい」とのたまう。「大転換である」と言いながら、「いささかも変えるものではない」のだ。これでは、なにを言いたいのかさっぱりわからない。これで国民をごまかせることも思っているのだらうか。それとも総理たるオレさまが「決断」したのだから、つべこべ言わずに黙ってついていこう。でも言いたいのだらうか。思いつきもいかにせん。聞かれないが、「丁寧な説明」などできるはずがない。

今こそ、反戦平和の叫びを大きくしなければならぬときだ。

(中)

【次号に続く】

統一自治体選・選対からの報告①

「いのち・くらし・平和」こそ

神戸市議選(灘区)小林るみ子

6期目への勝利に向けて掲げるメインスローガンは「いのち・くらし・平和」。

議会で女性の目線で追及し対策を求めた。

また、地方自治の本旨

である住民自治とは真逆

この間、コロナ禍で明らかになった社会の脆弱性を直視し、また、引きこもりや不登校など生きづらさを抱える人たちの目線に立つ小林るみ子は、

選挙情勢は、自民は12年ぶりに2人の公認候補(1人は女性)を擁立、維新も2人の公認候補を擁立し、それぞれ議席倍増を狙う。公明、共産の議席獲得は確実で、無所属職は井坂衆議院議員とペアで動き実質的に立



毎週月曜日の党灘総支部の朝立ちのほか、毎週土曜日には2カ所の定点で(交互に)女性たちの街頭運動を行う小林るみ子さん

会一の事務局として地域の人たちと議論しながら取り組んできた。

党選対としては今回の選挙をこれらの運動で繋がってきた皆さんと一緒に闘っていくことと、昨年10月に「小林るみ子サポーターズ」結成集会を持ち、1月22日には第2回サポーターズ集会を開いて、選挙情勢と選挙の意義の共有を図り、今後の取り組みへの意思統一を行った。

選挙情勢は、自民は12年ぶりに2人の公認候補(1人は女性)を擁立、維新も2人の公認候補を擁立し、それぞれ議席倍増を狙う。公明、共産の議席獲得は確実で、無所属職は井坂衆議院議員とペアで動き実質的に立

憲が支援する。6つの議席を現職6、新人2の有力8人で争う構図だ。

国会に議席を持つ政党に対し、小林るみ子が立ち向かっていくという大変厳しい構図と情勢だが、小林るみ子が取り組んできた諸々の真摯な活動を

土台に、国のあり方を根本的に変える大軍拡・増税を進め、高齢者いじめの医療制度や介護保険制度改悪など暮らしを壊す自公政治を変えて「いのち・くらし・平和」を立て直すことが急務だと訴え抜きたい。

「私の想いは常に市民自治の実現」だ。

今回は大激戦。今までの早い準備活動が今回の激戦を象徴している。定数は6。現在の議席は自民が2、公明、維新、あわはら富夫、立憲がそれぞれ1。今回、そこに共産と維新の2人目の新人が挑戦する構図で、さらに参政党なども出馬が予想されている。



あわはら富夫さんは月6回、3時間から3時間半の駅頭での朝立ち行動を続ける

とことん市民とともに 神戸市議選(中央区)あわはら富夫

あわはら富夫の今回のメインスローガンは「とことん市民とともに」。サブスローガンは「神戸

今回は11月に選対を結成。それに先んじて、集会告知ポスターを早めに作成。貼付を党員や支持者にもお願いして行い、予定していた400枚のポスターを貼り切った。また、後援会リーフレット

トも早めに作成。あわはら富夫本人が12月末から1月10日頃まで旧貴台区、旧生田区の支持者約2千世帯を後援会リーフレットを持って個々面接を行い、すでに終了した。今後、2月中旬から3月中旬にかけてポルトアイランドの支持者約2千世帯をあわはら富夫本人が個々面接する予定になっている。

また、選挙事務所にも転用する後援会事務所も東雲診療所の山側でみなど銀行の真向かいに確保し、すでに事務員も配置済み。配布も始まった。

2月19日には事務所開きも予定している。党中央総支部としては『新社会中央区版』の配布を1月から通常の隔月から毎月切り替え、支持者との結びつきを強めながら選挙ハガキの協力依頼と回収を行っているところだ。

選対は、全港湾神戸支部委員長に選対委員長を担ってもらい、いま全戸配布に全力をあげている。業者への委託も含め、6万5千枚というかつてない全世帯の8割に相当する配布も始まった。

地域ユニオン あちこちあれこれ

あかし地域ユニオンは、2月4日、第25回定期大会を開催する。いくつもの困難があり、検討し相

話しなければならない課題は多いが、毎日の活動を続けながら解決の方法を考えたいと思う。この大会も昨年の主な活動を報告し、働く者の要求を大切にその利益を守るために、どのように活動してきたかが問われなければならない。さまざまな仕事に就く労働者の声を聴いて、場

労働組合の存在と活動の役割の重要さ

いことである。

したがって、労働組合の存在と活動が決定的に重要であることは、それほど強調しても強調しすぎることはない。しかし、

に等しいのである。労働組合の無い企業で働く労働者は、それがどんなに正しい要求や意見であっても、企業が真摯にそれを受け入れること

日本の労働組合組織率は最新の資料では16・5%であり、従業員99人以下の企業では0・8%に過ぎない。労働組合が無い

などほとんどない。例えば昨年、あかし地域ユニオンに、「社長から『うちは有休がない』と言われている」「副業を希望するも有休も副業も残業代も解決できなかったが、残業の計算など担当者の苦勞はあるけれど、ユニオンの活動としては大きなエネルギーを費やすことなく、一度の交渉で解決できる。このような経験から労働組合の存在と活動がどれほど重要であるかがわかる。しかし、企業規模が小さくなるほど労働組合は

望んでも聞いてもらえない「残業代も全く支払ってこない」などの相談が寄せられた。すぐにユニオンに加入してもらい交渉を申し入れる。交渉

存在しない。このためか、一部にはヨーロッパに例のある「従業員代表制」を法的に位置付けようとする意見もある。

2023年の春闘は、以前に例をみないほどの大きな注目の中にある。経団連は「賃上げは企業の責務」と言い切った。われわれもどん欲に賃上げを求めて聞きたい。金平博(あかし地域ユニオン委員長)

存在しない。このためか、一部にはヨーロッパに例のある「従業員代表制」を法的に位置付けようとする意見もある。

美味しく食べて体を動かし、寒さを乗り切りましょう

つつい、家の中でじっとしてしまおう季節。お元気ですか?体が硬くなって、肩こりや少し動くと息が上がるということはありませんか?ちょっと意識して動かしましょう。かかとの上げ下げ、胸いっぱい深呼吸、グーパーグーパーで手を動かす。簡単ですね。体が少し温かく、軽くなったら食事作りも楽しくなります。

●黒豆(乾物)を“蒸し黒豆”に

①黒豆は一晩水に浸けてもどす。②圧力なべに水を3センチ程度入れて蒸す。弱圧にセットし、圧力がかかったら弱火にし、約12分程で火を止め急冷。蒸し黒豆はそれだけでももちり美味しいですが、サラダのトッピングに、ヨーグルトに(好みで砂糖や蜂蜜も)、豚肉や鶏肉の煮込み料理に入れると、栄養価が高まり、黒色が料理の見た目目を引き締め、一層美味しいです。これを食べたいために、2袋、3袋買っているほどです。



毎月お届けしています。

- でかんしよ米 (小多田屋米穀店) 10キロ 5,300円 / 5キロ 2,650円 / 3キロ 1,590円
- ささや米 (耕しや/阪東農園) 10キロ 5,100円 / 5キロ 2,550円 (玄米10キロ 4,800円 / 5キロ 2,400円)

(有)ぴいふる 電話/ファックス 078 (531) 0135



おんなの目

七草粥の日、それは突然だった。「ばあちゃん、今朝はあまり食べないなあ」と思っていたら、しばらくすると緑がかった茶色い液体を吐いた。「あっまた腸閉塞や!」、慌てて吸痰器で口の中の液体を吸い出し、訪問看護師に電話した。

母は昨年11月初めにショート先で同様のことが起こり、嘔吐物の一部が肺に入って誤嚥性肺炎になり、1ヶ月ほど入院した。コロナ禍の影響で面会は全く出来なかった。2週間の絶食、点滴で肺炎と閉塞は治まり、医師に呼ばれた。「口からの摂取を始めるが、できるかどうかはわからない」と。私は「食べられても食べられなくてもうちに連れて帰ります。最期は家で看取ります」と言った。

93歳の母は昨夏の猛暑がこたえ、食べる量が減りかなり痩せてしまい、訪問看護師に時々、点滴してもらっていた。食事はスプーンで与えていたが、なかなか口さえ開けず、やむを得ずエネルギー補充の吸うゼリーの先を口に入れるとむせせずに飲み込めたので、その旨を伝え、ナースのアイデアでシリンジ(針無し注射器)で栄養液を飲ませてくれることになった。

その2週間後、12月初めに母はシリンジと共に退院し、自宅のみでの介護が始まった。10月までは週3回のデイサービスに行っていたので、私はその間、筋トレに通ったり、パートでヘルパーとして働いたり、細々と活動したりしていたが、それは出来なくなった。母は1ヶ月ずっと寝たきりだったので手足が固まってしまうていたが、以前から来ていただいていた理学療法士の先生にリハビリでほくほくしてもらった

仕立ての餅抜き雑煮も食べさせることができた。正月には孫や妹にも会うことができたし、ひ孫とスマホの画面で顔を見て声も聞けて本当に良かった。その嘔吐の前日までそんな日々だったのだ。

嘔吐後すぐにナースが翌日にはドクターが来て下さり、「脈も触れないくらい弱く、老衰なのでご本人の負担にならないよう点滴などの処置はせず、自然に任せましよう」とのお話があり、「両日中」とのこと。覚悟は決めていたが、夜中に私がひとりで見守る時に息が止まってしまったら辛いなあと思ひ、3晩目に虫の息の母に「ばあちゃん、朝までがんばって!」と夜中に何度か声をかけていたが、夜が明けたので「ばあちゃん、もう頑張らなくていいよ」と。すると朝10時過ぎに目がカッと開いたかと思うと息が止まり、何度か大きく息を吐いて静かに目を閉じた。ちゃんと私の言う事を聞いてくれたのだ。こうして私の看取りは終わった。

以下は、私が神戸新聞文芸欄に投句した川柳で、掲載された中から母のことを詠んだものだ。ここ内はお題。

眠れぬ夜老母の寝息を聞いている(夜)
 敵味方だけは嗅ぎ出す母(春)(敵)
 冬越せた老母のセーター押し洗い(洗う)
 滑り止めマットの残る廊下かな(廊下)
 (元ヘルパーM・K)

家での看取り~私の場合

加古川で憲法カフェ

「生きづらさ」について語り合う



就職氷河期の生きづらさをふり返って語る岡崎彩子さん=1月21日、加古川市

「憲法を生かす加古川・稲美・播磨の会」は1月21日、県加古川総合庁舎内の「かこむ」で憲法カフェを開き、昨年の参議院選挙に比例区から出馬した岡崎彩子さんから「生きづらさを感じていませんか。声をあげよう」とも考えてみませんか」と題した問題提起を受け、学び合った。

岡崎さんは、「おんなシングル」それでも生きていける社会」のスローガンで訴えてきた選挙での経験を報告。就職氷河期世代として8年間の引きこもりを経験してきたが、その中でKHJ全国

ひきこもり家族会の方と出会い、全国で自分と同じ悩みを持って多くの人が苦しんでいることを改めて知ったと報告。労働者派遣法や日本型福祉社会の名の下で、「夫は仕事、妻は家事・育児」とされ、専業主婦世帯の優遇は女性の経済的自立を抑え、配偶者の離別・死別などで途端に貧困リスクが高くなり、特にシングルマザーはリスクが高いことなどを資料を添えて問題提起を行った。

ど考えさせられているなど、普段あまり人前で語らなかつた家族のことをこの場では素直に言えたと語ってくれた人もいた。(藤井)

阪神・淡路大震災から28年 神戸市役所前でスタンディング 旧「集い実行委員会」の有志



「追悼・連帯・抗議の集い」は昨年の27回をもって幕を閉じたが、その実行委員会の有志が新たに行動を呼びかけたもの。行動ではリレーによるマイクアピールが行われ、あわはら富夫神戸市議もマイクを握り(写真)、「地震は一瞬だが震災は今も続いている」として、借り上げ復興住宅の入居者が次々と時限をもって神戸市から追い出しを強いられてきたことを強く批判した。

震災後から毎年1月17日に同所で開かれてきた 9条守れ!「安保3文書」改定 許すな近畿集会 ●2月23日(木) 13時30分~16時30分 ●大阪・PLP会館5F ●講演「敵基地攻撃は即戦争への道」(藤井厚さん) (山口大学名誉教授) など

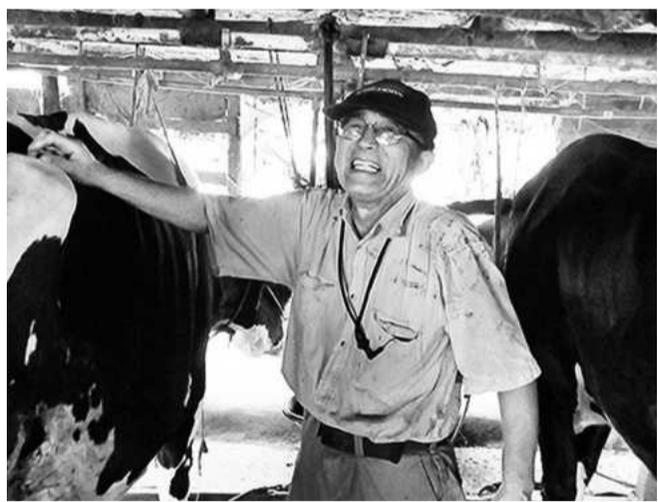
日本原 牛と人の大地

2022年5月15日、沖繩は施政権返還(日本復帰)から50年を迎えた。米軍専用基地の約7割が沖繩に集中する現実に県民は矛盾を感じ、基地負担の軽減を強く望んでいる。

下への復帰、平和と人権の確立を求め抗い続けた。1972年の日本復帰は、沖繩を「軍事の島」から「平和の島」へと転換するものではなかった。日米安全保障条約に発する日米地位協定やこれを具体化する法律系の中で、日米両政府は在沖米軍基地の維持と自由な使用を優先した。

50年代の「島ぐるみ闘争」、60年代には「復帰運動」となって、軍政からの脱却、日本国憲法の

日本本土の実態はどうか。全国に散在する自衛隊基地のひとつ、「日本原演習場」でも50年にわたる反基地闘争が繰り返されている。



共同利用する「入会」が行われ、演習場内の耕作権などが防衛省から認められている。しかし、いまや場内では耕作しているのは内藤さん一家だけとなった。

「基地反対のために田んぼ作りよると人は誤解する。実際は、田んぼは耕作しているのは内藤さん一家だけとなった。しかし、「山の牛乳」の生産が終わっても、ヒデさんは牛飼いを止めなかった。夫妻とも永年の労働と家事によって健康に支障を来していた。

現在は長男の太一さんが酪農を継ぎ、「日本原から自衛隊を撤退させて牛の放牧場にせんといい」と祖父である太一さんに言われた最期の言葉をずっと胸に秘めている。

自衛隊施設の日米共同使用、共同訓練が実施され、米兵の常駐化は「本土の沖繩化」に他ならない。憲法で保障された国民の権利が踏みじられる異常事態が本作にも映し出された。

平和な国に住み、自分の土地で静かに暮らしたい。そんな当たり前のことを沖繩、日本原の反基地闘争が訴えている。(大坪) 監督 黒部俊介/2022年/日本/110分

シネマランド

自衛隊演習場内で農業を営む内藤一家を追う記録

監督 黒部俊介/2022年/日本/110分